

◆新技術定着試験事業

新規海藻養殖試験 (宜野座 クビレオゴノリ)

水産業改良普及センター 吉田聡

1. 目的

クビレオゴノリ養殖への取り組みは昭和60年代から水産業改良普及センターを中心に養殖の研究が行われてきたが、現在まで養殖技術は確立されていない。

今回の養殖試験では、クビレオゴノリの四分胞子体を母藻として、水産海洋研究センターで得られた四分胞子を採苗し、その芽出しと生長について観察を行う。

2. 材料および方法

水産海洋研究センターが金武町福花地先で採取した母藻から得たクビレオゴノリの四分胞子を用い、テグスとモズク網に採苗を行い、宜野座村地先の共同第7号内及び特区第113号(もずくヒビ建て漁業)内の試験区において、芽出しとその後の生長について試験を行った。

試験は2mの長さのテグスを砂地とアマモ場に最大58本とモズク網1枚の張り出しを行った。また、管理は、宜野座漁協の漁業者の協力の下、水産業改良普及センターが直接行った。

<試験経緯>

- 5月10日 母藻採取
- 5月22日 果胞子採取
- 7月 9日 植え継ぎ(1回目):水研
- 8月17日 植え継ぎ(2回目)
- 9月14日 植え継ぎ(3回目)
- 9月19日 宜野座漁協(組合長)への協力依頼
- 10月17日 宜野座漁協理事会への協力依頼
- 10月24日 漁業者(モズク養殖)への協力依頼
- 10月29日 藻体の嚢果状況確認
- 11月15日 試験場所の検討

(漁業者よりヒアリング)

- 11月22日 種付け:水研
- 11月29日 //
- 12月 7日 テグス、モズク網への種付き状況確認
- 12月21日 石川・金武・宜野座漁協へ試験養殖同意依頼提出
- 12月28日 漢那漁港地先へ鉄筋打設開始
- 1月 7日 水産課へ区画漁業試験操業届出書提出
- 1月 8日 ①種付きモズク網を宜野座漁港地先の漁場へ展張
②漢那漁港地先試験区の鉄筋打設作業
- 1月21日 漁港区域管理者(宜野座村)へ試験養殖に係る照会
- 1月22・23日 種付け:水海研
- 1月24日 中城海上保安本部へ作業要領書他関係書類提出
- 1月29日 漢那漁港地先へテグス展張(2番～5番ライン):水海研
- 1月31日 種付け:水海研
- 2月26日 テグスの種付き状況確認
- 3月25日 漢那漁港地先へテグス展張(1番ライン:岸壁側)

3. 結果

本試験は年度がまたがるため、宜野座漁港地先の特区113号のモズク網に種付けしたオゴノリの生育状況については次年度の報告とし、今年度は漢那漁港地先の結果のみの報告とする。

漢那漁港では、囲い網有り区と無し区に分

け、それぞれ5ラインの試験区を設け、1ライン毎にテグス(2m)を4本、海底から30cm程度離れた位置に2本、海底に近接した位置に2本、計20本、漁港全体で40本のテグスを展張した。

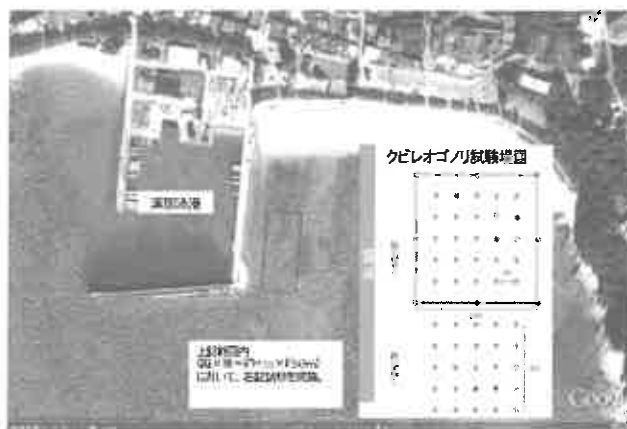
結果、岸壁より離れている箇所の生育が良く(岸壁側の最寄りにラインNo.1を展張、順次沖側に連番でNo.5まで展張)、展張深さは30cm位置よりも海底に隣接している方が生育が良かった。

また、囲い網の有無による効果については、囲い網無し有りの方が食害が少ないようであったが、藻体先端に食害痕がみられており、顕著な差は見られなかった。

4. 考察

今回の試験は水産海洋研究センターの移転にともない、採苗の途中で濾過層が撤去されており、何らかの影響がでている可能性がある。従って、次年度は新施設による採苗により同様な結果が得られるか確認が必要である。

囲い網試験については次年度も実施予定であるが、実際の養殖で全体に施行することは困難であることから、宜野座漁港での試験結果を踏まえ今後検討する必要がある。



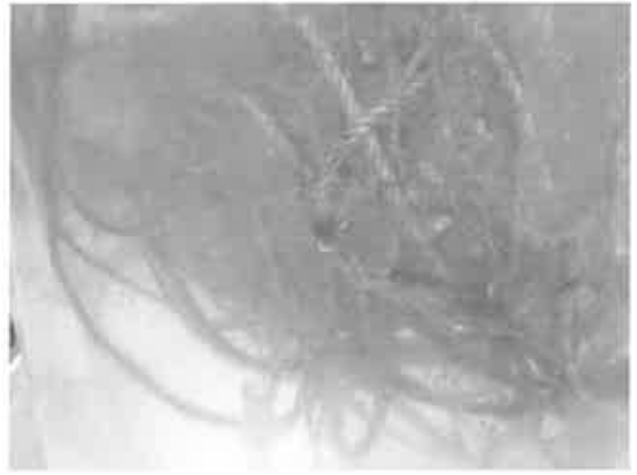
漢那漁港地先の試験区(共同第7号内)



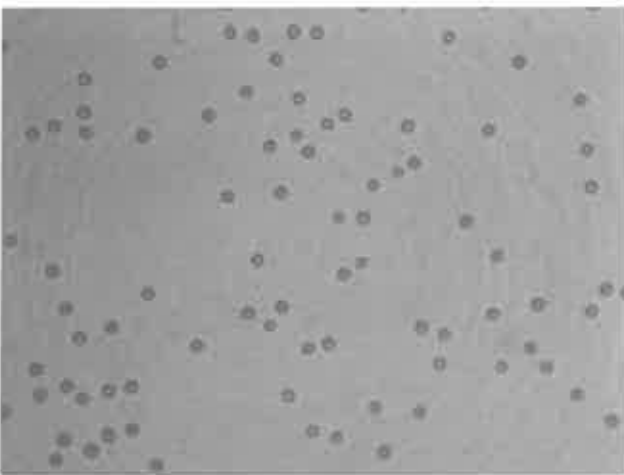
宜野座漁港地先の試験区(特区第113号内)



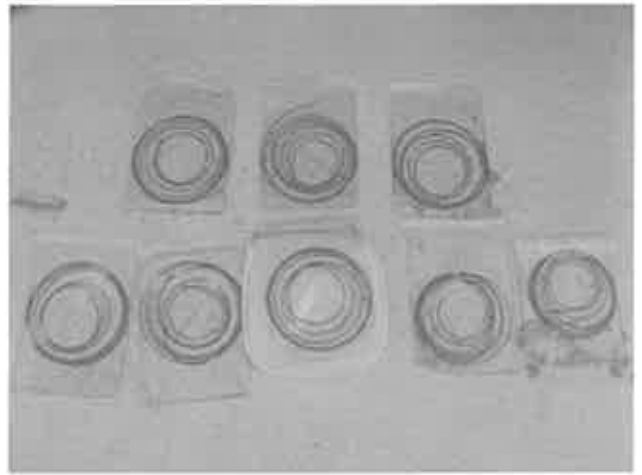
金武町福花地先で採取した母藻



モズク網への採苗の様子（その2）



母藻より採取したオゴノリの卵



採苗後のテグス



モズク網への採苗の様子（その1）



テグス展張箇所（漢那漁港地先）

< 罟い網有り区 >



No. 1 ライン



No. 4 ライン



No. 2 ライン



No. 5 ライン



No. 3 ライン

< 囲い網無し区 >



No. 1 ライン



No. 4 ライン



No. 2 ライン



No. 5 ライン



No. 3 ライン